

## クラゲ被害対策事業の進捗について

### 1 要旨・目的

県東部海域のミズクラゲ（以下「クラゲ」という。）の漁業被害を軽減するため、ICTを活用したクラゲの成体の駆除試験を実施したので、その結果を報告する。

また、今後実施するクラゲのポリプの生息実態調査及び駆除実証試験について、取組予定を報告する。

※ ポリプとは、卵から発生したクラゲの幼体が構造物などに付着した形態をいい、その後分裂・増殖して春にクラゲとなる。

### 2 現状・背景

近年、県東部海域を中心としたクラゲの大量発生に伴い、漁獲した魚の品質低下や、漁網の破損など、様々な被害が生じている。

昨年度は、定置網と底びき網において、クラゲ成体の駆除試験に取り組むとともに、ポリプの分布調査方法を検討した。今年度は、成体の駆除試験の時期や規模を変更して効果を検証するとともに、ポリプを広域的に調査することでクラゲの発生場所を特定し、うち1箇所ではポリプの駆除試験を行う。

### 3 事業の概要

#### (1) 対象者

福山地区漁業者（定置網 37 経営体、底びき網 106 経営体等）を中心とした県東部海域の中小漁船漁業者

#### (2) 実施状況

##### ア ICTを活用したモニタリング

令和7年4月から、定置網業者7名と底びき網業者3名により、ICTを活用してクラゲの入網量の情報をモニタリングした。その結果、昨年同様、定置網では4月中旬から漁業への影響が確認されはじめ、5月後半からは操業を早めに終漁する漁業者が見られた。また、底びき網においても5月上旬から漁業への影響が確認され、7月から8月前半にかけてその影響が大きくなった。

##### イ 専用器具による駆除試験

##### （ア）成体の駆除試験の実施場所

昨年度、阿伏兎及び田島の2箇所で実施した定置網における駆除試験は、今年度、横島の3箇所で実施した。また、底びき網における駆除試験は、昨年度に引き続き、田島南沖海域で実施した（図1）。

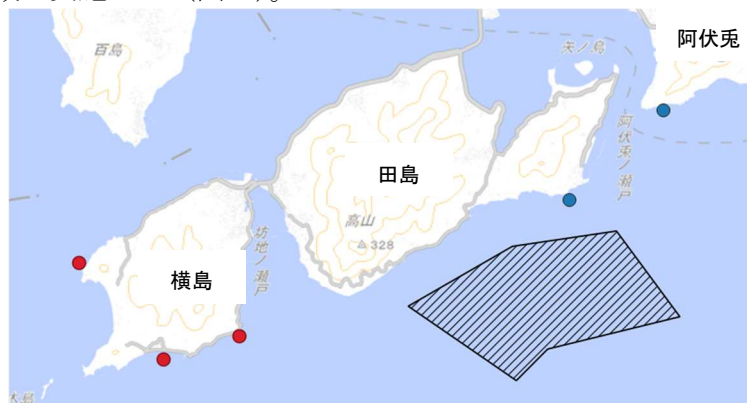


図1 駆除試験場所（定置網：● [今年]、● [昨年]、底びき網：斜線区域）

### (イ) 定置網における駆除

昨年度、延べ2回の駆除試験で合計 0.9 m<sup>3</sup> のクラゲを駆除できたことから、ノリ刈取り船の吸い上げポンプ（以下「ポンプ」という。）を用いた駆除方法が効率的であると明らかとなった一方で、駆除時期に使用することができる船の数が限られているという課題があった。

このため、今年度は、取組規模の拡大を目的として、ポンプの代わりに、一部の定置網漁船に搭載された小型クレーンを用いて、網に入ったクラゲを船上に吊り上げ、クラゲカッターを通して切断しながら海に戻す試験を、5月上旬から6月中旬にかけて延べ38回実施した（写真1左）。

その結果、合計 68 m<sup>3</sup> のクラゲを駆除することができ、その後底びき網のクラゲ被害が低減する傾向が見られた（図2）。

### (ウ) 底びき網における駆除

ICT を活用したクラゲの入網量の情報を基に、昨年度よりも3週間程度早い7月上旬から下旬にかけて、計4回、昨年度と同規模の延べ48隻による駆除試験を実施した（写真1右）。その結果、合計 41 m<sup>3</sup> の（昨年度は 18 m<sup>3</sup>）クラゲを駆除することができ、3回目の駆除以降にクラゲ被害が低減する傾向が見られた（図2）。



写真1 定置網（左）と底びき網（右）によるクラゲ駆除の様子

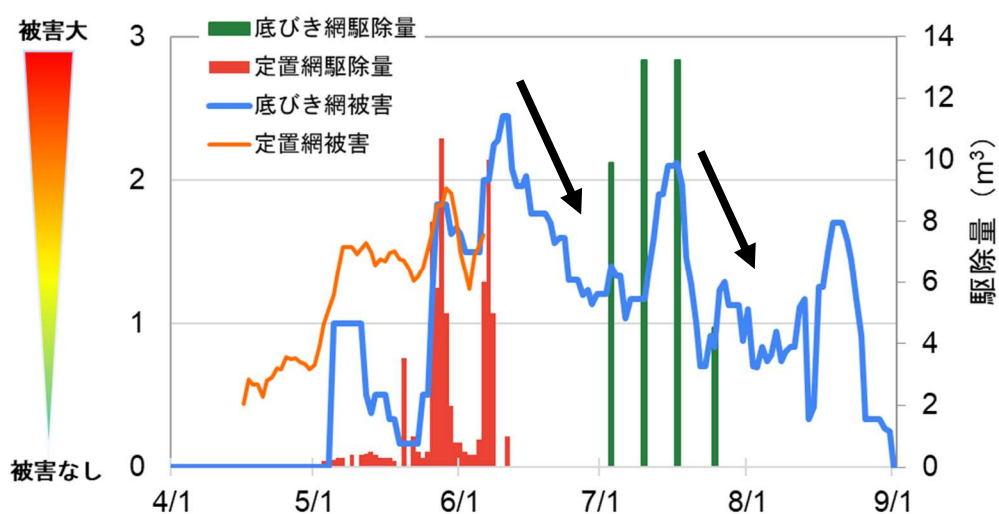


図2 定置網及び底びき網のクラゲ被害と駆除量の経時変化

(3) 今後のスケジュール

ア 今年度の予定

(ア) ポリプの広域分布調査

時期：ポリプ期の付着盛期である 11～1 月

場所：三原市から福山市にかけた東部海域で 15 箇所程度

(イ) ポリプの駆除試験

時期：12 月頃

場所：広域分布調査結果を踏まえ、1 箇所

イ 次年度以降の予定

被害状況や対策効果を評価するためのモニタリングを継続するとともに、①漁業被害を低減する漁業者による成体駆除、②発生源を断つためのポリプ駆除について実施方法を確認し、効果的なミズクラゲ対策をマニュアル化する等、クラゲ被害の低減に向けて取り組む。

(4) 予算（単県）

16,000 千円